

賑わいに奥行きを感じさせています。近景は広小路と呼ばれた両国橋西詰で、対岸が向両国と呼ばれた現在の墨田区にあたります。広小路には見世物小屋や覗きからくり、茶屋といった

隅田川の花火は夏の風物詩ですが、江戸時代は五月二十八日(現在の七月)から約三か月の川開き期間のみ、花火の打ち上げが許されていました。両国橋の東西の袂は江戸でも有数の盛り場でしたが、納涼期間中は一層の賑わいをみせました。北斎は春朗と名乗っていた習作期にこの風景を描いています。

作品タイトルにある「浮絵」というのは、西洋画の遠近法を取り入れた技法のことで、遠くを小さく、近くを大きく描き遠近感を表現するものです。本図では画面中央に両国橋を斜めに大きく描き、近景に両国の雑踏、遠景に広々とした川と空を配することで、川沿いの賑わいに奥行きを感じさせています。

北斎の描いた年中行事

③

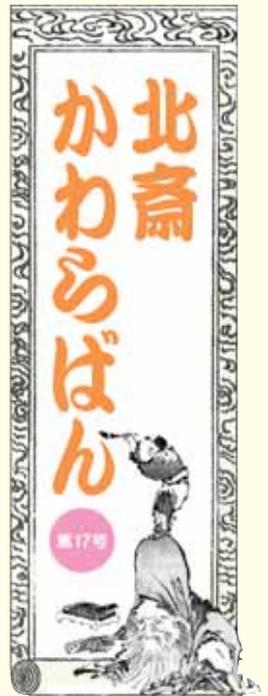
川開き

梅雨が明けると本格的な夏がやってきます。暑い夏に人々が涼を求めて水辺に集う風景は今も昔も変わリません。

葭簀がけの仮設の小屋が立ち並んでいて、路地は人で埋め尽くされています。しかし、その様子は身動きの取れない混雑というよりも、夏の夕暮れ時、涼みがてらそぞろ歩くかのような、ゆったりとした雰囲気漂います。橋の上にも多くの人々が行き交っています。のんびりと花火を眺めているようで、橋上で立ち止まり、欄干にもたれて花火を見上げている人もいます。川面に目を転じると、小さきままな船が描かれていて、涼み客を乗せた屋根船や小さな物売りの舟がひしめいています。手に掲げた筒から花火を打ち上げている人の乗る小舟もみえます。



すみだ北斎美術館



【発行】
墨田区区民活動推進部
文化振興課
北斎美術館開設担当
(墨田区役所1階)
☎03-5608-6115
【編集協力】
(公財)墨田区文化振興財団
北斎事業課



新板浮絵西国番夕涼花火見物之図

